

Cure and Care  
communication

第91号

## コミュニケーション

発行所 〒731-5142 広島市佐伯区坪井三丁目818-1  
Tel.082-923-8333(代) <http://www.pia-gr.or.jp/>

ナカムラ病院

介護老人保健施設 まいえ  
グループホーム つばい

医療法人ピーアイエー



特別養護老人ホーム

陽光の家

通所介護事業所  
訪問介護事業所  
居宅介護支援事業所

社会福祉法人双樹会

## 新年をむかえて

明けましておめでとうございませす。本年もよろしくお願ひいたしませす。

当法人は、昨年で創立二十五周年を迎えました。これもひとえに皆さまのおかげとこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

この極楽寺山の中腹に、原点である中村病院を構えてから三十八年。我々は、如何に地域住民の方に対しての安心・安楽な高齢(幸齢)社会を提供できるか、を考へてまいりました。近年、その甲斐あつてか、平成二十五年に開設しました認知症外来では、年々ご利用の方が増え、各医療機関や事業所からのご紹介も多くいた、だくようになりました。また昨年、広島市のモデル事業として開店したばかりの認知症カフェ「サロンドファミーユ」にも、まさにサロンの名の通り近隣の方々がたくさんに足をお運び下さり、幸先の良い

スタートを切ったばかりです。

かつて高度経済成長期に急激な人口増加による需要の増大から、広島市はデルタ部郊外の丘陵部に計画的に多くの住宅団地をつくりました。それから約四十年。人口減少、高齢化の波はそこらじゅうに容赦なく押し寄せてきております。

私達の住む佐伯区周辺も例外ではありません。メディアで取り上げずと以前より、高齢者の運転、買い物難民、老老介護の問題などが大変身近な話題となっており、毎日のように何かしらの事例が耳に入つてまいります。それらと向き合うたびに、これからの自分達の役割を改めて再認識し、気が引き締まる思いであります。さて、そんな我々にとっての心強いパートナーの存在がおります。社会福祉法人 双樹会の運営する特別養護老人ホーム『陽光の家』です。こちらも当法人理事長

である中村英雄が昭和六十三年に設立いたしました。そして平成十八年に広島市の委託を受け、広島市五日市城山観音地区地域包括支援センターが併設されてからは、行政との繋がりを持ちながら当法人とはまた違う立ち位置と役割で地域に貢献して参りました。

全国で二〇二五年を見据えた地域包括ケアシステムの構築が進む中、やはり大切なのは、通り一辺倒ではないそここの地域性や特殊性を生かした関係作りではないでしょうか。

診療報酬改定、病棟機能の再編などを含め、医療福祉業界にとつて、未曾有の大改革が続いていきます。

そんな中、私達はこれまで以上に手に手を携えて、お互いの立場を生かしあいながら、地域高齢者医療・福祉に向き合つていかねばなりません。

どうぞこれからも暖かいご支援ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

医療法人 ピーアイエー

副理事長 中村 友美

# 大規模防災訓練をおこないました!



平成二十八年十一月九日(水)午後二時から、当院建物および敷地内で、大規模な防災防火訓練をおこないました。

実施機関は、広島市佐伯消防署、広島市佐伯消防団、広島県防災航空隊、五日市観音西地区自主防災会連合会、当法人で、前回は三年前の十二月におこなわれました。また、訓練当日の参加者は、佐伯消防署・団ほか四十七名、自主防災会連合会二十八名、病院職員と患者さま約五十名でした。

今回の想定は、震度5強の地震が発生し、当院四階で火災が発生。自衛消防隊による施設利用者の避難誘導、初期消火活動をおこなうが消火不能。上階に施設利用者、職員が逃げ遅れており、その中には負傷者も多数いる、という内容でした。

開始前、見慣れない消防車両や制服・防火衣を着た方々が建物・敷地内に現れると周囲は緊迫した空気に包まれました。職員・外来用の駐車場には仮救護所、現地指揮本部、放送設備が次々と設置されていきました。

訓練では、建物の火災防御、人命救助、ヘリコプターによる航空救助連携、自衛消防隊による避難・通報・初期消火、当院と五日市観

音西地区自主防災会連合会の相互応援協定の検証、負傷者のトリアージ・応急処置、消防用設備等の活用がおこなわれました。マイクを通して訓練内容が説明される中、携帯無線での交信やアラーム音、ヘリコプターの音が鳴り響き、病院職員や地元の方々は「非日常」を体感することができました。訓練は開始から三十分程で終了しました。

この日のために準備、練習していたこととは異なる「想定外」も起きました。それは、それらは防災、減災を見直す貴重な体験となりました。

最後になりましたが、訓練にご協力いただきました皆さま方へ心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

防火防災管理者 中田 英雄



## 訓練後の講評

自主防災会連合会 古川 孝義 会長  
「ここ観音西地区は土砂災害警戒区域です。そしてこの近くには五日市断層が通っています。災害時には病院さんに助けをもらいたい。逆に、もしナカムラ病院さんに何か起きたら応援に来ます」

佐伯消防署 金川 武文 署長  
「多くの市民が利用される病院なので火災予防に注意し、有事には連携を密に対応してください」

ナカムラ病院院長 塚野 健  
「当院は高齢者や重症な方が多いため、災害時の避難は困難が予想されます。今日の訓練は本当に良い経験になりました」



## 私たちこんなことを発表してきました

### 第24回 日本慢性期医療学会 in 金沢



#### 摂食嚥下時の姿勢変化が 最大舌圧に与える影響について

リハビリテーション科 言語聴覚士 長川加奈子

ベッド上及び車椅子上で行う全身的な姿勢調整が舌圧に与える影響について発表しました。主に介護保険病棟の患者さまを対象に、舌の運動機能を簡単に数値で評価できる舌圧測定器を使用し、ベッド上及び車椅子上の良い姿勢、悪い姿勢の舌圧を測定しました。結果として、ベッド上及び車椅子上の悪い姿勢よりも全身的に姿勢を整えた良い姿勢の方が大きな値を示しました。このことから、部分的ではなく全身的に姿勢を整えることが舌圧の向上につながり、ひいては飲み込みの機能改善につながる可能性が示されました。今後も患者さまが安心して食事を召し上げられるよう、病棟と協力しながら支援をしていきたいと思っております。



#### ヒューマンエラーによる インシデントの発生防止について

B4病棟 介護職 上田 幸司

インシデントの発生の中でも、ヒューマンエラーによるインシデントが多く、病棟で話し合った結果、確実に指示呼称を行なっていない状況があるのではないかと考え、取り組みました。指で差して、声に出して業務に移るといった動作を徹底するために、スタッフ同士の声かけや確認を密にし、医療行為・ケアの際に指示呼称が確実に行なっているかを確認するチェックリストを作成しました。チェックリストを活用することでスタッフの意識づけに繋がり、指示呼称の重要性への理解が増え、ヒューマンエラーによるインシデントは徐々に減少していきましました。今後も、ヒューマンエラーによる医療事故をゼロにするために、指示呼称を続けていきたいです。



#### 訪問活動の成果と課題 ～顔の見える連携づくりを目指して～

地域連携センター 副センター長 小田 茂樹

地域連携センターでは、平成26年2月28日から、病院・施設・事業所への訪問活動を開始しています。訪問前後を比較することで、相談件数にどのような影響を与えているのか、相手先の反応を見直すことで見てきた成果、そして今後の課題について発表しました。当院についてあまり周知されていないところもあり、また誤ったイメージの存在も知ることが出来ました。今後は更に当院の機能を知っていただけるよう、病院・施設や事業所との連携強化に努める必要があります。当院での役割をしっかりと認識した上で、引き続き定期的な訪問活動を行い、地域との連携を深めていこうと思っております。

### 第27回 全国介護老人保健施設大会 大阪

#### めっちゃ好きやねん老健

— 咲かせよう 医療と介護の大輪の花 —

会期：2016年9月14日(水)～16日(金)

会場：大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル

まいえからは1名が発表しました。



#### 5S活動を中心とした業務改善への取り組み

まいえ2 介護職 板谷 真弓

5S活動の定義を改めて理解し、日常の業務の見直しや改善に取り組んだ結果を発表しました。入浴準備中に整理整頓をしながら物の表示や位置変更を行うことで業務の間違いが減り、身辺の環境が整うことで利用者さま自身が意欲的に片付けられるようになるなどのQOL向上がみられました。また、車椅子の清掃や点検を行う環境整備では、必要・不必要な物の分別や置き場所の統一化を進め、分かりやすく明記することにより、業務上の無駄な時間の削減し利用者さまへの整容などの時間を増やすことができました。今後も継続して5S活動を行うことで利用者さまの自立に向け、安全、安心な施設生活ができるよう、よりよい環境の提供に努めていきます。

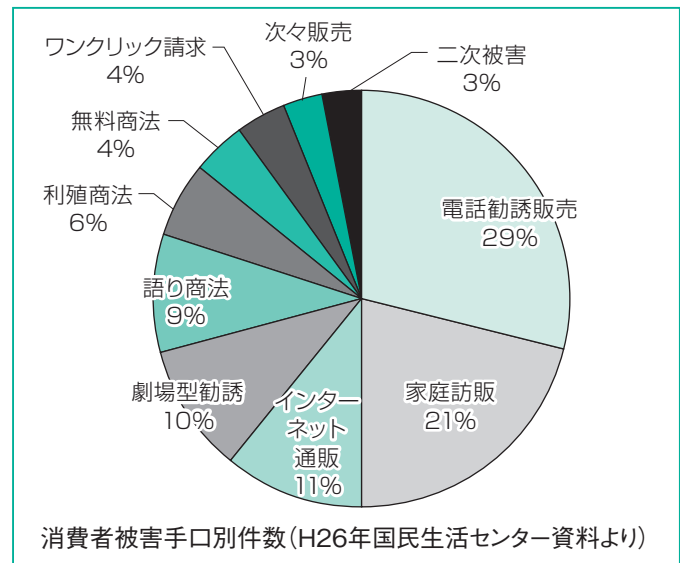
シリーズ全4回

第4回

# 権利擁護について

一年を通じて『権利擁護』について4回シリーズで掲載してきましたが、最終回の今回は『消費者被害』についてです。

近年、高齢者の消費者被害が急増しており、消費生活相談全体において高齢者に関する相談は大きな割合を占めるようになってきました。消費者被害にあった高齢者は、悪質事業者に騙された自分を恥じる気持ちから、消費者被害の事実を隠したり、解決を諦めてしまったりする傾向があります。しかし、一度被害にあった高齢者の氏名は、通称「カモリスト」と呼ばれる、悪質事業者間で売買される「被害者名簿」に載ってしまうことが多く、繰り返し消費者被害にあう可能性が高いのです。



消費者被害には、「訪問販売」「電話勧誘販売」「劇場型勧誘」「次々販売」「催眠商法」「かたり商法」など、さまざまな類型があり、その手口も多様化しています(資料)。また、警察や消費生活センター、包括支援センターを名乗る悪質事業者が出現するなど、「権威」を利用した被害も起こっています。

高齢者は「お金」「健康」「孤独」の3つの大きな不安を持っているといわれています。悪質業者は言葉巧みにこれらの不安をあおり、親切にして信用させ、年金や貯蓄などの大切な財産を狙っています。高齢者は自宅にすることが多いため、電話勧誘販売や家庭訪販による被害にあいやすいのも特徴です。悪質事業者は、不安や喜びといった「感情の喚起」を高齢者に引き起こした上で、「時間的切迫」(〇時までには支払う必要がある等)を加え被害を与えてきます。

そうした中、年々増え続ける消費者被害に対して地域包括支援センターでもさまざまな取り組みを行っております。まず被害を未然に防ぐために被害に遭いそうな高齢者はもちろん、地域住民や関係者を対象とした研修を開催し注意を促すといった予防への啓発活動や、関係事業所に実際に起きた被害の情報を提供し被害の拡大を防ぐように注意喚起も行ってまいります。また、被害に遭わないように家族や近隣住民等の見守りを強化することも重要になってきます。あるいは判断能力の低下した高齢者に対しては、成年後見制度を利用することで被害を防ぐこともできます。運悪く被害に遭った場合でも、クーリングオフや消費生活センターに相談することで、契約を取り消すことができる場合もありますので、あきらめずまずは相談することが大事だと思います。相談窓口として、広島市消費生活センターをはじめ市町村の高齢福祉担当部署や地域包括支援センター、警察等がありますので、是非ご相談してください。

地域包括支援センター 佐々木 亮

平成二十八年十月十三日(木)  
 毎年恒例となりましたボランティ  
 アグループ「ひまわり会」による  
 日本舞踊の慰問がありました。  
 演目は数多くあり、華麗に舞う  
 姿を見てうっとりされ、面白い仮  
 装姿には笑顔や笑い声が絶えませ  
 んでした。音楽と合った振付や息  
 の合った舞踊姿に良く練習されて  
 いるのだと感心させられました。  
 衣装にも凝っており、私達の目を  
 楽しませてくださいました。舞台  
 いっぱいに踊られる姿に、私達は  
 最初から最後まで舞台に目が釘付  
 けでした。利用者の方々も一つ一  
 つの演目に対して大きな拍手を送  
 られていました。



日本舞踊を見ることを楽しみに  
 している方が多く、貴重な時間  
 を共に過ごすことができました。  
 利用者さまの笑顔を見ることがで  
 き、とても良い時間となり、あっ  
 という間でとても楽しいひと時と  
 なりました。行事を楽しみにされ  
 ている方がいらつしやり、日々  
 の関わり方を見直すきっかけにも  
 なりました。今以上に地域に根付  
 いた施設を目指してこれからも取  
 り組んでいきたいと思えます。

陽光の家 通所介護事業所

生活相談員 佐々木雄治

「ちよつと様子を見てくるわ」  
 と今日もベランダに出られるKさ  
 ん。根分けしたシクラメンや、パ  
 ンジーの花、野菜のパプリカにね  
 ぎなどを、毎日熱心にお世話され  
 ます。利用者の皆さまから、「K  
 さんのおかげで、いつもきれいな



「花が眺められるね」と、お礼の言  
 葉も出ます。ときには、「ねぎが  
 育ったから今日のみそ汁に入れて  
 ね」と声がかかります。得意なこ  
 とが日課となり、生活の張り合い  
 になっていきます。水やりのあとは  
 今日、「あぁ、腰が痛い!!」

グループホーム つばい

ホーム長 川部 明美



みなさんは普段の生活の中でお口の中に違和  
 感を覚えることがありますか? 口腔粘膜は体  
 中でも生まれ変わりの周期(ターンオーバー)が  
 短く、体調の変化が現れやすい部位なのです。中  
 でも口腔乾燥(ドライマウス)はさまざまな原因  
 が考えられ、緊張やストレス、脱水、唾液腺の病  
 気などのサインでもあります。また口内炎は栄養  
 不足(特にビタミンB群)、免疫力の低下、疲労や  
 ストレスなどが考えられます。お口の中に違和感  
 を覚えたらまずは食生活を改善し、リラックスし  
 て水分と睡眠をとることを心がけてみましょう。

歯科医師 山脇加奈子

😊😊😊😊平成28年😊😊😊😊

# 満足度調査結果報告

平成26年に続き、この度も満足度調査を実施しました。まずは、お忙しいなかアンケートにご協力いただいたご家族の方々にはこの紙面を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

近年スーパーや飲食店でも「顧客満足アンケート」なるものをよく見かけますが、満足度調査とは、文字どおり顧客満足がどうなのかを把握するものです。満足の度合いをアンケートなどの調査によって数値化・可視化し、現在の満足度を把握し分析することで、サービス向上に繋げるために行います。よりニーズに合ったサービスを提供できるように実施するものと言えます。

さて、当院ではこの度も前回同様入院患者さま・退院患者さまともに実施致しました。入院患者さまだけの

調査だと、お世話になっているという遠慮から率直な意見をいただくことが難しいこともあるので、退院患者さまにも実施致しました。アンケート項目は前回同様全9項目(①医療・看護・介護について②職員の接し方について③療養生活について④食事について⑤院内や室内の環境、設備について⑥情報の提供について⑦プライバシー保護について⑧面会について⑨その他)とさせていただきます。回収率は、入院患者さま57%、退院患者さま42%でした。調査結果ですが、入院患者さま・退院患者さまともに概ねよい結果をいただいております。いただいたコメントについては、改善を要する必要があるものは、早急に検討していきます。

今後も少しでも「大変良い」がいただけるよう、職員一丸となって頑張っていきたいと思っております。ただし、良い結果をいただくための形だけのサービスではなく、本当に患者さまのことを第一に考えたサービスを提供していく所存です。結果はあとからついてくるものであることを忘れず、日々精進していきます。

地域連携センター 副センター長 小田 茂樹

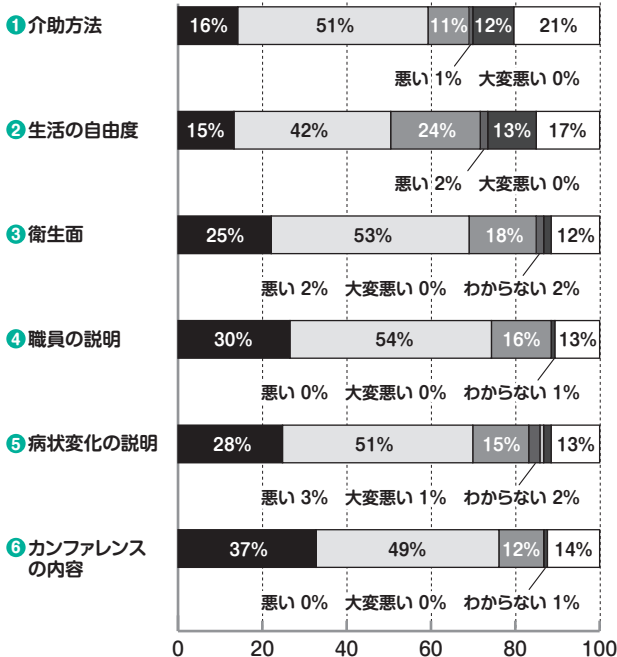
### 掲示案内

満足度調査結果のグラフを、病院内の各掲示板に掲示しておりますのでご覧ください。  
また、ご自由にお持ち帰りいただけるよう病院受付に設置しております。

## ●入院患者さま

### ① 医療・看護・介護

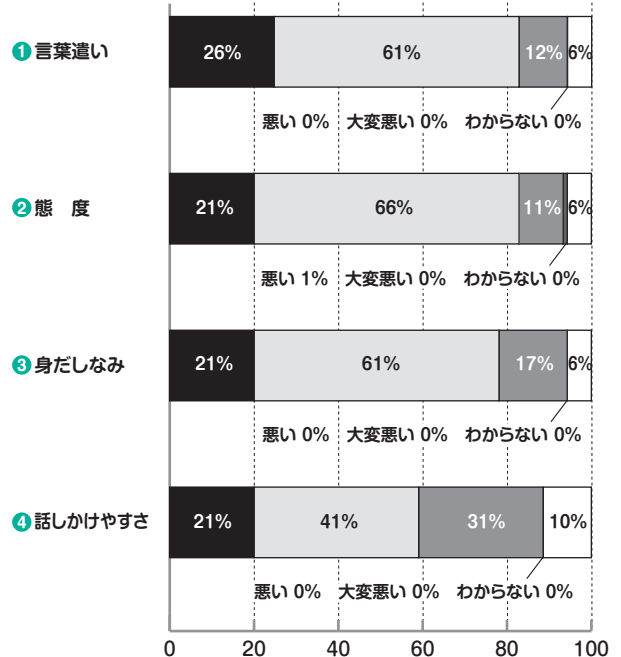
■ 大変良い □ 良い ■ 普通 ■ 悪い □ 大変悪い ■ わからない □ 無回答



## ●退院患者さま

### ② 職員の接し方

■ 大変良い □ 良い ■ 普通 ■ 悪い □ 大変悪い ■ わからない □ 無回答



# いきいき 行事だより



## クリスマス会



平成二十八年十二月十七日(土)に、B棟四階大ホールでクリスマス会が開かれました。

毎年恒例の全体行事としてのクリスマス会を楽しみにされている患者さまも多く、会場の中は、先日初雪が積もったばかりとは思えない、寒さを吹き飛ばすような熱気であふれていました。

クリスマス会を最初に盛り上げたのは「坪井獅子連」さまの勇壮な獅子舞で、患者さま一人一人を噛みながら、これからの健康を祈念していただき、患者さまも大変喜ばれていました。

続いて登場された「立海忠とブルースターズ」さまの生演奏はクリ

スマソングの間に懐かしい童謡が盛り込まれ、会場全体で大合唱。中には涙される方もおられました。

中盤には「北国の春」体操を入れ、日頃より慣れ親しんだ患者さま、また、馴染みのない患者さま双方が一体となりいきいき委員の動きを見て楽しく体操されました。

本格的な生バンド演奏、歌手の方々の歌声に感動する中、楽しい時間はあつという間に過ぎて行きました。

いきいき委員はこれからも患者さまの笑顔に支えられ、楽しい行事をお届けしていきます。

介護老人保健施設 まいえ

介護職 板谷 真弓

## 五日市高校 インターンシップ

平成二十八年十月七日(金)、五日市高校二年生三十八名が職場体験研修に来訪されました。

前回に続き四回目となりました。年々参加人数が増え、若人の医療職への関心の高さを感じております。

将来医療に携わる現場で働きたい。興味はあるけど、どんな仕事なのかわからない。そんな思いを持った高校生に自分たちの目指す八つの職種(看護師・理学療法士・作業療法士・薬剤師・管理栄養士・医療事務・社会福祉士・介護士)



の職場体験をしてもらいました。

当院では、高校生と高齢者の方とのふれあいの中で専門職員の説明を受けながら実体験をしてもらっています。そうした体験を通じて仕事の内容への理解を深め、今後の進路につなげていくお役に立てるよう地域福祉学習の場を提供しております。

体験実習後、高校生の皆さんから「印象に残ったのは、職員の方が患者さんとのコミュニケーションをとられる姿です。患者さんとお話しをするうちに笑顔になられる姿をみてコミュニケーションの大切さを知ることができました。」と発表されました。

また来年度もナカムラ病院に高校生の皆さんが来られ、お会いできることを心待ちにしております。

ナカムラ病院

看護部長 撰 敬子



# 認知症カフェだより



平成28年10月21日ナカムラ病院に認知症カフェ「サロン・ド・ファミーユ」がオープンしました。毎月第3金曜日に開催し、認知症に関心のある地域住民の方を中心に、認知症のご本人とご家族、地域の専門職の方など、毎回30名余りの方に参加していただいています。

前号では認知症カフェの概要についてご説明いたしましたので、今回は当院の認知症カフェの具体的な内容についてお話ししたいと思います。

カフェ開店と同時に自然な流れで1人また1人と参加者が集まります。皆さんをおもてなしするのは、白シャツに黒いエプロンを着けた相談員・看護師ほか多職種スタッフです。

BGMが流れる中でコーヒーや紅茶、お菓子を召し上がりながら、参加者同士やスタッフと会話を楽しみ、自由な時間を過ごしていただきます。その後は、専門職による認知症に関するミニ講話を行います。ちなみに講話のテーマは、10月が塚野院長による「認知症の予防は本当にできるの?」11月は薬剤師による「認知症のお薬について」12月は相談員による「認知症の人を支える制度について」でした。講話で頭を回転させた後は、理学療法士による体操でリフレッシュしていただきます。毎回皆さんから「体操またお願いします!」と好評をいただいています。その後はレクリエーションとして、作業療法士と簡単な物作りをします。10月・11月はステんシルのしおり・カレンダー・年賀状、切り紙コースターなどを作っていました。私も参加しましたが、結構楽しいのでおすすめです!



また、12月には

バイオリニストの上野眞樹様によるミニコンサートを行いました。バイオリンの音色に心を癒され、ユーモア溢れるトークに皆大笑いし、沢山元気をもらいました。過去最高52名の方に参加していただき大盛況でした!



そして、自然な流れでカフェは閉店となります。

毎回地域の色々な方との出会いが楽しみです。参加したスタッフは皆口を揃えて「楽しかったです」「また参加したいです」と、いきいきとした表情を見せます。

今後サロン・ド・ファミーユが、地域で生活されている認知症のご本人やご家族、地域住民の方、専門職との集いの場として輪が広がり「生き甲斐」や「楽しみ」につながることを願っています。また、皆さんに喜んでいただけるカフェとなるようこれからも、スタッフ一同楽しみながら頑張っていきたいと思ひます。

地域連携センター センター長補佐 中村 智子

## ご案内

- 日時** 毎月第3金曜日 14:00 ~ 17:00
- 場所** ナカムラ病院A棟2階食堂内
- 対象** 認知症のご本人やご家族、地域住民の人、専門職の人など認知症に関心のある人ならどなたでも参加可能です。

**参加費** 無料  
**お問い合わせ先**  
 医療法人ピーアイエー  
 ナカムラ病院  
 ☎082-923-8333 (代表)  
 [担当] 地域連携センター 中村



新年あけましておめでとうございます。今年もまた、あつという間に過ぎていくのかなと思ひますが、日々少しずつでも成長していけたらいいなと思ひます。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

(H)



## 編集後記



新年あけましておめでとうございます。今年もまた、あつという間に過ぎていくのかなと思ひますが、日々少しずつでも成長していけたらいいなと思ひます。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。



平成29年 2月 ▶ 5月

今後の予定 ※展示内容は一部変更する場合があります。	
展示場所	期間・内容
第一展示コーナー	2月上旬 ▶ 3月下旬 お散歩カメラ展 トルコ編一
	4月上旬 ▶ 5月下旬 玉田博子と仲間達の パッチワーク作品展
第二展示コーナー	2月上旬 ▶ 4月中旬 島田 薫 写真展 一近郊の四季一
	4月下旬 ▶ 6月上旬 五日市高校 美術・書道展